

清風会報

No. 69

巻頭言

新型コロナウイルス禍での活動を通じて

清風会会長

高橋 幸太郎

第一・第二・第三波と

新型コロナウイルス感染が猛威を振るい、感染予防のために日々の生活や活動がいろいろと制限されている今日、特に私たち高齢者にとつては一段と注意が要求される日々かと思えます。

そんな中、清風会行事におきましても、令和二年度の総会を書面決議とさせていただいたのははじめ、予定されていた会議や行事が中止になっております。県の行事においても同様で、会員の皆様には大変ご心配及びご迷惑をおかけし、誠に申し訳ない限りでございます

す。また、毎年二回発行

の広報においても、年度当初の会議開催が難しく、今年度は一回の発行とさせていただけました。

さて、私も会長をおおせつかり、残すところ半年（皆さんがこの広報を目にする頃は残りわずか）となつてしまいました。

平成から令和に変わった昨年度は、私にとりまして何事も手探り状態でしたが、顧問の山口先生及び副会長・庶務・会計の先生方をはじめ理事の方々のお力添えがあり充実した年となりました。本当にありがとうございます。今年度は

新型コロナウイルス禍での活動で困難きわまりない令和二年度となつてしまいました。しかし、庶務の鈴木先生をはじめ役員の方々の「今はどのように進めたらよいのか」と言う提言により、一つ一つ無事に進めてくることができました。

例えば、どうしても必要な会議においては会場を借りることができない為、役場の軒下での会議で済ましていただいたり、提出物や配布物を手渡ししたりさせていただけました。理事の方々は本場に申し訳ない限りでした。また、本会の大きな行事である「彩の国教育の日」協賛現職・退職校長秩父地区教育推進協議会が開催見送りとなり、とても残念でありました。この協議会開催準備におきましても、担当の方々には大変なお骨折りをおかけし、なかでも

現職の石原明先生と本会の坂本雅夫先生には無理を言ってお願いをしておきながら、結果的には中止となつてしまい、お詫びのしようもありません。本場に申し訳ありませんでした。

もう一つ残された本会の大きな行事である親睦研修旅行につきましても、今のところぜひ実施できる方向でと考えております。十分な感染予防対策を講じることにより無事に有意義な旅行が実施できたらこの上ない喜びであります。この広報をお届けできるときには結果がわかっているわけですが、どのような結果であれ、その時点での最善の選択であつたと言うこととお許しただきたいと思えます。

このような状況を過さず中で、今後の清風会の活動だけでなく、自身自身の日々の過ごし方に

ついても考えさせられた日々でした。今までのように、与えられ「やらなければならぬこと」をやることから抜け出し、「今の自分に何ができるのか」を常に考えるようにしていかなければならないことを教えられたように思います。

新型コロナウイルスの終息にはまだまだ時間がかかると思われませんが、明けのない夜はありません。この会報が皆様の手元に届く頃には、新型コロナウイルスウィルスワクチン接種の目処も見え、来年度の新会長様をはじめ役員さん方が決まつていることと思えます。

来年こそは、新役員の皆様方をはじめ、会員の皆様方のこのコロナ禍で溜めに溜め込んだパワーを発揮していただき、楽しく心温まる活動が展開されることを心よりお祈りいたします。

おめでとうございませう 喜寿によせで

喜寿を迎えて

茂木 守

今から三十年程前、教頭に任命された年に、従来使用していたワープロをパソコンに変更しました。パソコンを購入し、セットアップする際メールアドレスが必要になりました。k i k i k i 77としました。当時四十六歳、健康で生き生きと七十七歳になるまで元気に生活できたらいいなあと思いい前記のメールアドレスにした次第です。その願いは叶って、退職してから十七年があつという間に経過してしまいました。幸いにも病気がない病気がせず、昨年喜寿を迎えることが出来ました。その際

当支部により御祝を頂きましたことを紙面をお借りして御礼申し上げます。「この一打の先に心を揺さぶる瞬間が待っている」この言葉がゴルフの魅力を端的に表現していると思います。私は退職と同時に秩父地区の退職教員で組織する「白寿会」に入会し、毎月第二月曜日に健康の保持増進を図ると共に多くの会員とゴルフを楽しみ、会話を楽しみ親睦を深め合っています。二年前、老人クラブの会員になり、グラウンドゴルフも楽しんでます。

古希の前後からいろいろな役を受けるようになってきました。居住地原町第二常会長、評議員会議長、小鹿神社氏子総代、我が

家の菩提寺十輪寺の世話人等です。新しい経験は自分に良い緊張と刺激を与えてくれています。

私の父は長寿を全うし百二歳で生涯を終えました。その父が八十歳になった年、一人で写真館に行き本人の葬儀に使う写真撮影をしてもらい、額入のその写真を「俺のもの」の時これを飾れ」と私に手渡しました。私も間もなく傘寿になる身、心の中に「自分のもしもの時」を留め置いて、今まで以上に健康に気を配り、一日一日を大切に、充実した日々を送りたいと思っています。

喜寿を迎えて 『自分史』

古川 米夫

『自分史』を作りました。きっかけは、自分の人生を振り返り反省をし、書き始めました。約九ヶ月かけて、一頁1050

字、565頁(写真を含む)を作り上げました。

自分のことだけを中心に書き始めましたが、作成しているうちに妻や子供、きょうだい、父母等を入れていきました。

作成中、多くの人達に「失礼が沢山あつたなあ」「申し訳ないなあ」などと反省ばかりでした。

そうした中で両親と妻は勿論、多くの指導者、先輩、同僚、友人、保護者、教え・教えられた児童生徒など、多くの皆様に大変お世話になり、現在の自分があることをしみじみと感じました。感謝・感謝で一杯です。

内容は、誕生からの日常生活、小学生から高校生、担任としての実践内容、全国道徳授業研究会等の発表内容、管理職等の挨拶文、退職後の家庭児童相談員、教育事務所での学校教育指導員、リフォーム、NPO法人秩

父の環境を考える会、シルバー、生まれた所に来たからの役割等の内容です。そして日々の農作業(野菜と果樹栽培)です。

現在は「朝は希望に起き、昼は努力に生き、夜は感謝に眠る」を念頭に生活しています。特に「昼の努力に生き」は、私は体力や気力を維持するために若干無理をしながらも農作業や散歩(一日おきに二時間)に頑張っているつもりです。最近はいつまでできるかと考えるようになりました。

努力は趣味、特技、食事、園芸、読書、スポーツ、五感を活かすなどを考えることが出来ます。健康の維持には食事、体を動かす、睡眠、ストレッチをためないように留意することです。

通院が多くなりましたが、日々楽しく過ごすよう心掛け、生活していきたいと思えます。

喜寿を迎えて

大久保 典雄

清風会会員の皆さんこんにちは。

平素、会員の皆様には大変お世話に成ります事、心より厚く御礼申し上げます。

この度、貴会より喜寿のお祝を賜り誠にありがとうございました。過日地区理事の坂本武文様からお届け頂きました。

振り返りますと、還暦・古稀・喜寿と人生の節目を無事通過し、健康に生活していただける事を感謝せずにはられません。

私が退職後始めた事は、自宅裏の荒れ地を開墾して畑にする事でした。三年程かかりましたが、どうにか畑が出来ました。現在畑の隅に「根っこ山」と「石塚」が有り、開墾の思い出に成っています。畑は約四アール、

痩せ地で石ころだらけですが、奮闘努力して造ったものですから愛着があります。後期高齢者故、無理のない範囲で、細々ながら野菜栽培中心に楽しんでいきます。

半年程前の事、都内府中市に住む弟から電話があり、私の次男が制作したCD（宮沢賢治歌曲集）を同市内にお住まいの友人（高名な尺八演奏家）のAさんに送ってほしいと、以来が有りました。

CDをお送りした数日後、Aさんから分厚い封筒が届きました。拝読したところその奇遇に驚きました。Aさんは皆野町

ご出身で、私が現役時代に大変お世話に成ったS先生のご子息でした。Aさんは、私の住所が小鹿野町だったので、とても驚いたようです。私は早速S先生にお電話し

て、CDにまつわる経緯やお互いの近況等を語り

合い、旧交を温める事が出来ました。

たった一枚のCDが絆に成って、S先生・Aさん・私・次男とを引き継ぎ結んでくれました。人生の摩訶不思議を覚えま

す。御礼旁々近況報告と致します。

「一言の重さ」

竹内 功

会からの執筆依頼を機に、自身の歩んで来た道の一端を振り返って見ました。

私が教師の道を志すようになったのは、中学生の時に教わった体育の先生の一言でした。「君は運動が得意だから将来体育の先生になるといいよ。」月日が流れ、高校卒業後の進路選択に直面した時、中学時代の恩師、西昭太郎先生からの「一言」を思い出し、体育教師の

道を進むことに決めました。

念願叶い教職の道を歩み始めて十数年、いろいろな経験を積む中で、普段なにげなく使っていた「教師」と言う二文字に對し、疑問を持つようになりました。果して生徒達に對して「教える人」となっているのか、自問自答した時期がありました。

答えは「教える」ではなく、一緒に「学ぶ」と出ました。それ以後、授業に学校行事に部活動等、楽しい教職生活を生徒達と共に送ることが出来ました。

生涯「一体育教師」を志していた私に、思いもよらない社教主事講習への参加依頼がありました。再三再四断り続けましたが、参加することとなりました。

その後、学校現場と教

すこと六回、教頭、校長として九年、派遣社教主事、社教課長等を八年経験させていた頂きました。

生涯「一体育教師」の夢は叶いませんでしたが、それ以上に多くのことを学ばせていただきました。ある時には教え子に先輩の先生方に、さらに学校現場では経験できなかったであろう、一般社会での多くの経験全てが私の大切な宝物です。

今まで出会った多くの方々に支えられ、健康で喜寿を迎えられたことに深く感謝申し上げます。共に、「一言」をいたいただいた恩師、西昭太郎先生にもお礼申し上げます。



ようこそ清風会へ 新入会員の声

雑感

コロナ禍にて

長谷川 修治

この度、新会員として仲間入りさせて頂いた。これまでに多くの先生方と出会い、温かいご指導をいただいたことに心から感謝いたします。

自分が初任者として所沢の小学校に赴任した頃、よく先輩の先生に連れられて、飲みながら教育談義に華を咲かせました。その中で、教師としての心構えや子供への接し方など教員としての基礎を学んだように思います。また、教育センターの嘱託として勤めていたことから、同世代の仲間と語り合ったり旅行にいった

りしたことを懐かしく思い出します。教員としてスタートし、四苦八苦しながら仕事を進めていく上で、大変貴重な経験でした。

現在、再任用教員として市内の小学校に勤務しています。職員室は、プラスチックの板で区切られ、味気ない風景となりました。マスクで顔の表情もよくわからず、人と人との交流も制限され職員相互の在り方も大きく変わりました。そのような状況にも拘らず、学校現場で熱心に努力する教員の姿に頭が下がる思いです。学校も社会も大きな変化を迫られる中、新しい学校教育の創造に向けて努力する日が続いています。

古きよき時代からウィズコロナへの転換が避けられない時代。学校は、この先どのような方向へ向かうのか。豊かな心を育み、絆を深めるためには・・・いかに知恵と工夫を凝らしていくか。逆境をプラスに変える学校経営に期待するとともに、平穏な日常の回復を心より願っています。

「思い出の整理」

尾上 貴宣

退職を機会にいつか整理しようと考えていた教員生活三十六年間の数百枚の写真。一枚一枚に当時の思い出がたくさん詰まっています。入学式、初めての担任学級での授業風景、苦勞したが充実感と教えるプロとしての成長をさせてくれた研究授業、体育祭や文化祭、修学旅行などの各行事。とても楽しく先輩たちの温かさ

に触れることができた職員旅行。そして子どもたちと多くの時間を費やした部活動。日付がない写真も多いけれど、その時の光景が鮮明に浮かんでくる。

コロナ禍であるが先日、初任から十年間務めた担当学年の卒業生、部活動の子どもたちとささやかな集まりをもった。当時の学級や学校行事の様子、管理職に強引に頼み込み車のライトで校庭を照らして行った部活動夜練習やライバル校に初めて勝利した試合のエピソード。当時の私が非常に怖い存在であったことも当然話には出てきたが、おおいに盛り上がった集まりになった。当時は校内暴力などで多少荒れていた時期もあったが嫌な思い出が一つもないのは、当時の子どもたちはもちろん先輩や同僚、保護者や地域の方々との温かい支えが

あったからだと思う。

現在思い出に浸りながら、多少のコメントを載せて写真のデジタル化とアルバム作成を進めている。世の中が早く正常になることを願い、できあがったアルバムを見ながら卒業生たちと語り合えたらと考えている。



気ままに

小林 章男

定年退職の二年前から「気ままな旅」の準備と練習をはじめた。春、週末の二日間を何度か使い、坂東札所三十三か所を車中泊で回った。寝袋、マット、LED照明など、使い勝手の良い道具を揃えた。御朱印帳を埋める墨黒と朱が幸せな気分させてくれた。

夏、東北六県を、テント泊をしながらバイクで回った。車載に限りがあり、テント、自炊用具など軽量でコンパクトな道具を揃えた。土砂降りに見舞われ、気ままな旅には強い心と柔軟性が大切なことを知った。津軽半島では海峡からの強風に負けないよう深くペグを打ち込んだ。

慣れてきた今は、季節や天候に応じて、車中泊かテント泊かを選び、旅に出かけている。

中学の修学旅行では、龍安寺石庭を眺め、次に乗るバスのことを考えていた。計画通りに班別行動することを気にかけて、その時を楽しんでいなかった。

教師として、子どものために限られた時間をどう有効に使うか、どれだけ費やせるか。いつも気が急いでいた。ねらいを共有・達成するため、時

間をつくり同僚たちと話し合った。山積する課題、同時進行で常に複数の課題解決に取り組んでいた。性分なのか、仕事柄なのか「気まま」に行動することはなかった。

準備は大切だが、今をおろそかにしない。旅をしながらその時を堪能する。贅沢に時間を使い、気ままに過ごす。それができることは大変ありがたい。幸せなことだと思つて、新たにキャンピングカーの旅の準備を始めている。

新しい生活

*** 田代 明 ***

学校での教員生活を終えて、早八か月が過ぎ、教育相談員として週三日勤務する生活サイクルにも慣れてきました。

今年は新型コロナウイルス感染症拡大の影響下、未だに以前の通常の生活

ができずにいます。ウイルス感染を心配し、外出や他人と交流することを控え、自宅にて過ごす時間が多くなりました。

学校勤務をしていた時は、仕事中心の生活で自分のことや家のことなどになかなか目を向けることができませんでした。

家で過ごす時間が確保されると、身の回りのことに目が行き、直したり、片付けたりする機会が増えました。何十年もしまつてあつた書類や衣類、古くなつた家財道具等、使つていた当時のことを思い出しながら随分処分しました。今まで役に立ってくれたことに感謝しつつ、まだまだ片付け・整理は続きます。

一方で、最近楽しく取り組んでいることもあり、その一つがギターを弾くことです。学生時代に買ったクラシックギターは持っているのです

が、二年程前にあるソロギターリストの曲と演奏に魅せられ、初めてアコースティックギターを購入しました。そのソロギターリストは岸部眞明さんです。ユーチューブなどでも演奏を聴けるので、興味のある方は是非聴いてみてください。

それから、珈琲豆を挽いて淹れ、その香りと味を楽しむことも日課となつていきます。

健康のためにも体力づくりをしながら、自分の新しい生活を主体的に築いていくことを楽しみたいと思えます。

コロナ禍の激動の年

*** 新井 孝彦 ***

令和二年四月一日、皆野町教育委員会の学校教育指導員として、コロナとの闘いの中で第二の人生が始まりました。学校の臨時休業、そして再開。

感染対策、夏季休業日の短縮や土曜授業など、子どもたちの学びを保障するために様々な課題に取り組みました。

また手作りマスクを全園児・児童・生徒に届ける、フェイスマスクを全教職員に届ける、指導主事とともにユーチューブで子どもたちを元気にする動画を配信する、ちびエフエムに出演し、園・学校の取組やメッセージを発信するなど「みんなの子ども応援プロジェクト」と称した手探りでの新たな取組も創出しました。経験したことのない未曾有の事態の中、何事にも柔軟に対応してきました。

そして十二月一日、皆野町の教育長を拝命しました。重責に身の引き締まる思いです。

自分にとつて令和二年という年は、定年退職、まさかのコロナ、新しい

生活様式、そして教育長就任というまさに激動の一年といえます。

これからお世話になった退職校長会の諸先輩方ははじめ、多くの皆様方とのつながりを大事に、それを支えにして、職務を全うすべく努力する所存です。そして「地方創生」とか「持続可能な地域づくり」といった大きなテーマにも微力ながらチャレンジしていきたいと思えます。

今後とも退職校長会の諸先輩方のご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。退職校長会の益々の発展をお祈りいたします。

ゴールは新たなスタート 菅沼 典雄

退職後、健康づくりのためにと秩父札所巡りに挑戦。往復徒歩にこだわりの一日四二・三キロ歩けた日には達成感が疲労感

を上回る。初めて歩く道から眺める景色は、新鮮で気持ちを心地よくしてくれた。暑くなる夏前にはすべて終え、次なる挑戦を思案中。終わりの見えないコロナ禍の最中だが、「次ぎは四国か？できるかな、いつ行こうかな？」などと退職後の余裕の生まれた時間で何ができるか、あれこれ考えるのも楽しいひと時となっている。

長く関わってきた野球のことが多く頭に浮かぶ。現職のうちには行けなかった教え子の所属する社会人野球の応援、高校・大学・プロ・メジャーリーグ等の野球観戦巡り、年相応のプレイで還暦登板も実現したい。

退職した先輩に「趣味は多い方がよい」とアドバイスを頂いたが、増やす余裕もなく退職を迎えた。野球以外の趣味を持つとうと、四月に狭い畑な

がらも野菜栽培に挑戦。職場の先輩や近所の人の教えのおかげで何とか収穫。思っていた以上に面白く、育て作る喜びを味わおうと思う。

「退職（ゴール）まで」と過ごした日々を終え、新しいことに挑戦できる生活を前向きに送っていききたい。学校教育との関わりも継続でき、微力ながら地域社会に役立てるよう、心身の健康を保ちながら精一杯力を尽くしたい。清風会の諸先輩の皆様、御指導を宜しくお願いいたします。



生きがい探訪 会員からの近況報告

日々の積み重ね

新井 雄一

退職後は地域貢献に取り組みようと決意し、一日を積み重ねてきました。その一端を記し、近況報告いたします。

○尾田蒔消防後援会

町会長退任後、尾田蒔消防後援会長に指名され、二年間務めてきました。

在任中は尾田蒔消防団全体やポンプ操法大会出場分隊への支援・助成等に取り組みできました。

○上蒔田消防応援隊

退職後の翌月から消防応援隊に所属することになり、五期十年間（一般隊員・副隊長・隊長）務めてきました。応援隊倉庫の管理・消防ポンプの放水点検・防災訓練への

参加・消防団との連携等に励んできました。

○学校運営協議会

平成二十九年四月から四年間、尾田蒔小学校運営協議会長をお世話になっています。学校経営方針の承認、学校応援団の在り方、各種行事や授業参観等をおして、意見等を申し上げてきました。

○民生児童委員

令和元年十二月から秩父市民生児童委員に就任し、上蒔田地区を担当しています。高齢者世帯を中心にして訪問していますが、乳幼児や小中学生が在宅する家庭への情報入手にも心掛けています。

○御田植祭の冊子発行
秩父地方の御田植神事は、上蒔田樟神社と秩父神社で行われています。二つの神事を一冊にまと

めようと考え、三年間を
かけ、尾田蒔と原谷の歴
史研究会合同で調査・研
究を進め、令和元年六月
に冊子を発行しました。
これらの活動をおとし
て、地域貢献に励み、生
きがいや自己実現を図り、
社会参加により一層努め
る所存です。

共同無人直売所

黒沢 清一

数年前から地域共同の
無人直売所を経営してい
る。行政区長の時に立ち
上げた。ねらいは地域の
活性化である。自分一人
の無人直売は経験済みだ
が共同となると結構手間
が掛かる。準備期間約二
ヶ月で「開業」した。

初日。思い思いの野菜
等を棚に並べ全員で記念
写真をパチリ。「初めて
の売り上げ金は神棚に上
げた」というおばあさん
や「売り上げ金は専用の

貯金箱に入れている」と
言う人もいる。自分の作っ
た物が売れたという事だ
けでも新鮮で嬉しいこと
である。顧客も増えて、
総売り上げは大台に達し
ようとしている。直売所
の周りから話し声や笑い
声が聞こえるようになり、
以前より地域が少しにぎ
やかになってきた。

この共同無人直売所か
ら発送する通販にも挑戦
した。意外と好評を博し、
手土産持参で自宅に立ち
寄ってくれる顧客もいた。
しかしこの取組は送料が
壁となり一度きりになっ
た。送料が品物代を上回
るのである。

戸数二十。住民三十二
人。子どもの数ゼロの限
界集落である。時代の波
が押し寄せ、大きく様変
わりしてしまつたがこれ
が現実。ここが自分にとつ
て終の棲家である。たと
え僅かでも活気を呼び戻
し、未来に希望の持てる

ところにした。

それやこれやで、黄金
期といわれる退職後の十
年はいつの間にか過ぎて
しまった。だが、今は人
生百年の時代。古稀とは
いえまだ先がある。七十
歳代を新黄金の十年間と
みなし、その黄金の味す
なわち日々の喜びを堪能
したいと思っている。

地域はみな師匠

逸見 久良

漫才師が「そろそろ老
後の事を考えなくては？」
「冗談言うなよ。老後は
老いた後のことだろう。
今は老中だろう。」とい
う話があるが、この説で言
う老中である日々、地域
の関わりの中で教わるこ
とばかりである。

地域の山歩きの会に入
会させて頂き、近郊の登
山を楽しんでいる。初心
者から名峰を歩いてきた
健脚の人など、様々であ

る。この会の先達は「山
を甘く見てはいけない。」
と登山の鉄則を教え、必
ず下見をした後、参加者
を安全に案内してくれる。

そして登山の基本は勿
論、山や草木の名前等も
一緒に教えてくれる。神
社仏閣に立ち寄れば、歴
史や由緒等を教えてくれ
て、般若心経や祝詞も唱
える。お陰様で般若心経
も少々唱えられるようにな
つたりと、楽しみなが
ら勉強させて貰っている。

四月からは、地域の方々
の協力を頂きながら、町
会長としてやっている。
時代を感じるのは、文書
のやり取りや報告もライ
ンを使う。使いこなせば
便利であるが、錆び付い
た頭は働かず、悪戦苦闘
の日々である。

ペタンクも始めた。町
会長は、地域のペタンク
大会の役員に自動的にな
るとのこと。簡単そうに
見えるペタンクだが、奥

が深くちよつと嵌まつて
いる。会員の皆さんは上
手で、どうやっても、生
半可では勝てない。覚え
た言葉がある。「今日も
秩父神社だよ。」意味は
「参拝」↓「三敗」であ
る。

大会で見事優勝したト
ロフィーを町会長保管で
預かっているが、早く実
力で堂々と飾りたいもの
である。

張り切っています

坂本 雅夫

秩父市ではペタンクが
盛んです。私も下吉田ペ
タンク愛好会に入りお年
寄り達と楽しんでいます。
ペタンクってどんなので
すかとよく聞かれます。

あの氷の上で行うカーリ
ングやボツチャの基になっ
ているフランスで始まっ
たスポーツです。町の公
園や広場でペタンクを楽
しんでいるお年寄りを見

かける方もいらつしやる
 と思います。競技では三
 人のチームプレーをいかに
 生かすかが大切になり
 ます。球を的に近づける、
 相手の球をはじく、個々
 が特技を発揮し、作戦を
 立てながら進めます。月
 に一度は大会があり、七
 〇八十代の人と組んで上
 位を目指します。失敗は
 気にしない。うまく作戦
 通りになった時には、ひ
 そかにたたえ合います。
 ゴルフもよかったです。こ
 ど、グランドゴルフには
 まだ早い気はするし、と
 いうときにちょうどベタ
 ンクに出会いました。楽
 しみは、お年寄りとの触
 れ合いにあります。これ
 まであまり親交が深くな
 かった地域の方々に魅力
 を感じます。これから私
 はどう生きていけばよい
 のか、ここにいる高齢の
 方々が示してくれている
 のです。「人のことは言
 わない」「愚痴は言わな

い」「人の話をよく聞く」
 「無駄に贅沢はしない」
 「しつかり敷かれてい
 るにお父さん、お父さん
 とたてられている」「周
 りに迷惑をかけていない
 か気にかけている」等々。
 あんな風に歳を取りた
 いなあ。お年寄りの中
 では若手のつもりが、気が
 つくと仲間入りの歳になっ
 っていました。もうひと
 生、古い切るまで、高齢
 社会を明るく生きていき
 たいと思います。

**行政相談委員を
ご存じですか**

磯田 喜次

退職七年目、僅かな畑
 での野菜栽培、家の周辺
 整備にも追われがちだが、
 順番で避けることができ
 ない区長、世襲的な意味
 合いの強い地元神社の責
 任役員など、やむを得ず
 役を引き受けている。
 一方、長瀬町の学校教

育指導員もさせていただ
 いているが、教育界の変
 化の激しさを痛感すると
 ともに、コロナ禍の中で
 奮闘する現役の皆さんの
 お骨折りに頭が下がる
 思いである。

関わる内容となると専門
 外であり、当初は不安ば
 かりが先行した。月に一
 度の定例相談日にはドキ
 ドキしながら相談者を待
 ち受けている状況だ。
 ところが、私の担当す
 る荒川地区には相談者が
 ほとんど来ない。四年間
 で三件ほどしかない。

さて、表題の行政相談
 委員だが、これもやむを
 得ず引き受け、四年が経
 とうとしている。
 そもそも行政相談委員
 をご存じだろうか。恥ず
 かしながら、私はこの仕
 事を引き受けるまでほと
 んど知らなかった。一般
 的にも、認知度は低い。
 行政相談委員は、行政
 機関の業務に関する苦情
 の相談を受け、必要な助
 言を行ったり、関係機関
 にその苦情を通知したり
 するという業務を担う。

実際、地域で何か問題
 があれば、通常は町会組
 織等を通じて申請し、解
 決に導いている。相談者
 が少ないのは、自治体が
 住民の願いに即応できる
 体制が整っている証だと
 勝手に解釈している。

コロナ禍のなかで

関田 恵一

私は令和元年度末をもつ
 て二度目の「定年退職」
 をしました。そして、様々
 な希望を抱きながら令和
 二年度を迎えました。そ
 の矢先の「コロナ自粛」
 です。自分の生きがい

ひとつでもある旅行や写
 真撮影など県外への外出
 を言い出そうものなら、
 家族からは「何も、この
 時期に」と止められました。
 た。ましてや「密」にな
 る宴会、会食などへの出
 席など論外でした。退職
 後に是非やってみたい、
 行ってみたい、誘われた
 いと思っていたことの多
 くが「自粛」せざるを得
 ないこととなりました。
 いつかはコロナ禍も終
 息することと思えますが、
 それがいづになるか予想
 はつきません。また、こ
 のような生活をいつまで
 強いられるのかの見通し
 も不明です。自分自身は
 もとより、家族や親しい
 人たち、地域の人たちの
 健康安全を守るためには、
 コロナ禍以前と同様の生
 活や行動に戻ろうとして
 はいけないと思うようにな
 りました。戻ろうとす
 れば、そのうちに必ずや
 自分が感染源の一人にな

ることでしょう。余り神経質になる必要はないが楽観論は危険です。

そんなことから、私は自分自身の頭をリセットしようと思いました。心のリセットは生活習慣からと考え、早朝のラジオ講座を毎日欠かさずに聴くことにしました。自らに義務を課して生活リズムを付けようと思いましたが、講座を聴き終わると、新しい一日が始まります。そのあと、今まで決して持つことのできなかった贅沢な時間がたっぷりとあることに気がきました。

しばらくの間、このゆったりとした時間の中で、これまででできなかったことに少しづつ取り組んでいきたいと思っています。



四二、一九五への挑戦

新井 和弘

小さい頃から、足が遅く速い人に憧れていた。中学で野球部に入り毎日走っているうちに自信をつけた。高校で陸上を始めたが、まったく実績を残すことができなかった。それでも力を試したくなり進学した。家庭が大変な状況で、頼る者もなく自分で働いて貯めたお金が尽きた時、大学を止めようと考えていた。進学を知った先生が「あいつが競技をね、へー」半ばあきれていたと後に知った。大学に入りしばらくして学校の五千円のトライアルがあった。スタートしてすぐに最後尾となり実力の差を思い知った。三十キロロード練習では皆平然と走る中、一人必死の形相で走る自分がいた。その後、仲間の

背中が見えなくなるまでさほど時間はかからなかった。戻った時グラウンドには誰もいなかった。その後も必死に練習に取り組み、仲間との距離が近づき、気がつく競い合っている自分がいた。監督からも声をかけられ、練習に励み、マラソン挑戦を決意した。その頃から体に異変を感じるようになった。体に力が入らず発熱を繰り返した。そして休部、その後退部した。教職についても頭の隅から離れなかったが、日々の指導に明け暮れた。退職が近づくと志半ばで諦めた「マラソンに挑戦」を再度決意した。精一杯走りゴールした時、長い間の拘りに終止符が打て、新たなものが見えるような気がする。そう信じて重い体、痛い足に耐えて今日も走ってきた。人生とは挑戦し続けることのように思われる。

会員の動向

会務報告

◆主な行事

- ・4月10日 第一回理事会
- ・6月30日 第一回旅行委員会
- ・8月5日 第二回理事会
- ・9月25日 第一回広報委員会
- ・10月27日 第二回広報委員会
- ・10月28日 県理事会
- ・12月14日 第二回旅行委員会
- ・12月18日 第三回広報委員会
- ・1月15日 第四回広報委員会
- ・2月9日 第三回旅行委員会
- ・3月9日 親睦研修旅行(予定)
- ・3月29日 第三回理事会(新旧)

祝叙勲 瑞寶雙光章

若林 和男 久保忠太郎

祝米寿

若林 和男 豊田 武夫

祝傘寿

磯田 亮洋 大沢 輝夫

祝喜寿

大久保典雄 竹内 功

岡村 寛 野口 清

千島 進 逸見 彰臣

新入会員

長谷川修治 小林 章男

田代 明 菅沼 典雄

尾上 貴宣 新井 孝彦

逝去

設樂富士雄 野口慶之助

秩父支部理事分担

顧問(前支部長)	山口喜一郎
会長(支部長)	高橋幸太郎
副会長(副支部長)	大島 敏夫
副会長(副支部長)	猪野 知
幹事(庶務)	鈴木秀太郎
幹事(会計)	砂永 雅代
監事	野田 眞
監事	新井 和弘
○広報委員会	
猪野 知	今井 進
浅見 哲夫	邊見 文子
鴫田 文男	濱中 崇史
堀口 芳嗣	
○旅行委員会	
大島 敏夫	神山 洋二
山中 守成	服部 義雄
新井 英信	
○班代表理事	
秩父市班	杉田 茂久
秩父班	池田 久男
小鹿野班	守屋 敏夫
皆野班	山口 榮子
○県理事()は専門部	
高橋幸太郎(支部長)	
砂永 雅代(庶務会計)	
中 紀雄(研究調査)	
坂本 武文(福利厚生)	
小泉 進(広報・HP)	

教育現場からの報告

撫子の学校で



秩父市立吉田小学校長 吉田 和敬

本校の校章は撫子です。秋の草花ですが、丈夫で強い花です。初代校長増田玄次郎先生も自身の短歌、特に児童生徒の短歌に「撫子」の言葉を使っていました。

生徒 「園守りの心づくしに咲きいてていつれおとらぬ撫子の花」

生徒試験 「撫子の根さしはおなし庭なからまさりおとりの花を見えけり」

増田先生は「撫子」を児童生徒と見ていたのでしょうか。当時おそらく、吉田小学校の秋の花壇は撫子がたくさん咲いていたと思われます。撫子はありませんが、草花ですが、それでいて気高い美しさを持っています。また、弱そうに見えるながら、雨にも風にもなかなか折れ

ない強さを持っています。そんな撫子のように児童生徒も育つてほしかったのではないかと想像します。

「生徒」の短歌は、撫子の花がいずれおとらぬように咲き誇っているように感じます。増田校長先生をはじめとする先生方の思いが届き、すべての児童生徒が順調に成長していたのかも知れません。

「不言感化」の学校に赴任して四年間、校長を務めさせていただきました。初代校長の理念を背中に背負いながらの学校経営でした。児童一人一人が撫子のようにたくましく誇りを持ってほしいと願ってきました。

また、本校は吉田という地域の中で教育を進めてきた学校でもあります。三年生では、「龍勢祭り」

について学んでいます。吉田龍勢保存会の方が講師となり、松や竹を実際に使った「ミニりゅうせい」を子供たちが設計・製作し、打ち上げ前の口上・太鼓などにも取り組んでいます。

蛭の学習では、「吉田ほたるの郷の会」の方を講師に招き四年生が蛭についてや自然を守る大切さについて学習しています。

五年生の米作りでは、「ホウネンエビを守る会」の皆様を始めとする地域の方が講師となり、東京農業大学の学生とともにホウネンエビ、カブトエビ農法の田植えや稲刈りを通じて、環境についても学んでいます。

健康教育においても学校と家庭が連携するとともに、歯科校医の先生をはじめとした地域の支援もいただき、優秀校として表彰されました。

さらに朝の読み聞かせやミシンの学習、学校フェア

ムの整備、月初めのあいさつ運動など多くの地域の皆様、保護者の皆様の支援によって吉田小学校の教育活動が成り立っています。

子供たちが博物館・美術館等で実物に触れながら歴史や文化を学び、学んだことを地域の魅力として発信するプログラムを博物館・美術館等と学校が連携して取り組んでいこうという博

学連携の研究も二年間行ってきました。博物館や美術館等との連携で学んだことを社会へアウトプットする力を育てていくプログラムを新しく考えながらの取組です。モデル校として二年間取り組んで来ました。吉田小学校の地域と歩む教育活動を具現化したものとなりました。

教育活動の成果の一つとして埼玉・教育ふれあい賞も受賞できました。

地域と共にという学校の姿勢が評価されたことに感謝いたしました。本校児童

も様々な地域の皆様のご支援で、素直な吉田の子らしさを育むことができました。校長として四年目の今年度は、学校経営のまとめの年として、取り組もうとしていましたが、コロナ禍のために思うような教育活動が難しい年になりました。

四月、五月の臨時休業期間、吉田公民館前で給食のパンの配布に参加しました。多くの児童がパンの受け取りに来館しました。久しぶりに見る児童の顔、顔、顔に思わず笑顔になりました。元氣そうな児童の様子に安心しました。やはり子供あつての学校だと改めて感じさせていただきました。

これからも退職されました先輩校長先生の皆様には、いろいろお世話になることと思えます。これからもご指導ご鞭撻をよろしくお願いたします。



教育現場からの報告

「ふるさとを愛し自分を見つめ、

よりよく生きようとする心豊かな児童の育成」

を、考え、議論する道徳科の授業を通して」

長瀬町立長瀬第二小学校長 石原 明



一 はじめに

今まで経験したこと
がない状況の中、「ど
のようにしたらできる
か」を考える毎日であ
る。先が見えないコロ
ナ禍の中、学校が学校
であるために取り組ん
だ本校の研究の一端を
報告する。

二 研究の概要

本校は、平成三十年
度から道徳（道徳科）
の研究を推進し、令和
元・二年度「彩の国の
道徳」研究推進事業研
究推進モデル校として

埼玉県及び長瀬町から

研究委嘱を受け「ふる

さとを愛し自分を見つ

め、よりよく生きよう

とする心豊かな児童の

育成を、考え、議論する

道徳科の授業を通して

「」を研究主題として、

職員一丸となり取り組

んできた。

(一) 研究の重点

研究を進めるにあたつ
ては、重点を次のよう
に設定した。

①道徳の授業で、答え

が一つではない道徳

的な課題を自分自身

の問題として捉え、

物事を多面的・多角

的に考える「考え、

議論する道徳」を実

践することで、より

よく生きようとする

児童を育成する。

②家庭・地域と連携を

図り、豊かな体験活

動や地域の人たちの

ふれあいを意図的・

計画的に仕組むこと

で、ふるさとを愛す

る、心豊かな児童を

育成する。



(二) 研究の組織

よりよく生きるため

の基盤となる道徳性を

養うため、道徳的諸価

値についての理解を基

に、自己を見つめ、物

事を多面的・多角的に

考え、自己の生き方に

ついて考えを深める学

習を通して、道徳的な

判断力、心情、実践意

欲と態度を育てるため、

授業研究部、調査環境

部、地域連携部に分け、

研究を推進した。各部

の取組は、次のとおり
である。

①授業研究部

「考え、議論する道徳」

の実践のための授業改

善として、誰でも手順

に沿って道徳の授業を

組み立てることができ

る授業づくりシートや、

評価簿作成等の取組を

行った。

②調査環境部

本校の児童の意識調査

を行い、児童が物事を

自分自身の問題として

捉えたり、物事を多面

的・多角的に考えられ

たりするように、校内

や学級内の環境を整備

した。

③地域連携部

地域・家庭と連携した

体験活動を通して、心



豊かな児童を育成する
ために掲示物を作成し
たり、お便りで活動を
紹介したりした。

三 成果と課題

主な成果は、「考え、
議論する道徳」の授業
研究を重ねることで、
教師の道徳科の授業力
の向上が図れたことだ
がある。児童も主体的に
取り組み、自分を見つ
め、ねらいとする価値
に迫れるようになって
きた。また、教師は児
童の変容を継続的に見
とれるようになり、指
導と評価の一体化が図
れた。

そして、自他を大切
にし、実践行動につな
げることができている児童
が増えた。

課題としては、「考
え、議論する道徳」へ
の転換へ向けて、さら
に教師全員の指導力を
向上させたい。

生き生きライオン

書を楽しむ

人生の反として

木村 英一

退職を機に書をはじめ、十四年になります。特にやるのが無かったので、自然と野菜作りと書になりました。

自分の書が、世間に通ずるのか、一人よがりになっていないかを確かめようと公募展に出品しています。

左の作品は、佐賀県展に出品して今年佐賀市長賞(特選)を受賞したものです。



縁もゆかりも無い佐賀県展で、認めていただけたいことは、嬉しいと共に自信になりました。

コロナで授賞式は中止となりましたが、昨年は入選で参加しました。

この書展は、書家の登竜門と言われています。書家になれる訳ではありませんが、目標があつて楽しむ、そのついでに妻と旅行してくるのも楽しみです。

佐賀の吉野ケ里遺跡は、バスで回るほど広大で、出土した土器から大陸とのつながりも古くからあつたようです。唐津城やくちの曳山も見事でした。佐賀は明治期に八賢人として、大隈重信、副島種臣、江藤新平などそうそうたる人物を輩出しています。

GRIITを伸ばす

池田 久男

GRIITという言葉を知ったことがありますか。GRIITには「やり抜く力」という意味があり、

今話題の非認知能力の一つです。アスリートや企業家など、様々な分野で多大な成果を収めた成功者に共通する力として、今とても注目されています。

GRIITを伸ばす方法としては、「興味があることに打ち込む」「失敗を恐れずチャレンジし続ける」「小さな成功体験を積み重ねる」の三つがあげられます。ただ「何かをやり抜けばよい」というわけではなく、正しい目標設定が必要です。私には、ロードバイクと溪流釣りという二つの大切にしている趣味があります。これらは、今後



も情熱を込めて極めていきたいと考えていますが、「ハードなことに挑戦する」という目標を立て、新しいことにも取り組んでいます。コロナ禍の現在は、家の中でできる「超ハイスペックなパソコンを自作する」ことに没頭しています。

今更何かで成果をあげたいという気持ちはありませんが、これからの人生をより輝いたものになりたいという思いはあります。そのためにも、GRIITの要素である「闘志・粘り強さ・自発・執念」をもって、何事にもチャレンジしていきたいと思

います。

編集後記

コロナ禍で県・支部共に総会・研修会・親睦研修旅行等ほぼ全ての事業が中止又は延期、学校休校措置もとられた令和二年度。

私事だが、寒風の中、通路での理事会は辛かったです。ステイホームで数独や読書を楽しみ、図書館の有り難さに感動。いろいろあつても「お変わりなくお過ごしですか」の挨拶に安堵しつつ、毎日変わらぬ生活が送れる幸せをかみ締める。

ここに会員皆様のご協力によりやつと「清風会報」第69号をお届けできます。心より感謝します。

清風会(第六十九号)
発行 令和三年三月一日
発行者 会長 高橋 幸太郎
 秩父市吉田久長
 八五一十
印刷所 清風会事務局
 秩父市黒谷一〇三六
 (株)萩原印刷
 ☎〇四九四三四一四二六